

発表日時 平成22年5月21日
所属 教育委員会事務局文化財保存課
担当 記念物・埋蔵文化財係
電話 0742-27-9866

平成22年5月21日（金）に開催されました、国の文化審議会（会長 西原鈴子）において、史跡名勝天然記念物等の指定の答申がおこなわれました。そのうち、奈良県に
関係する4件（平城宮東院庭園の特別名勝の新指定、特別史跡藤原宮の追加指定、史跡奈良山瓦窯跡の追加指定及び名称変更、史跡唐古・鍵遺跡の追加指定）についてお知らせ
します。

特別名勝の新指定 1件

平城宮東院庭園（へいじょうきゅうとういんていえん）

指定地所在 奈良市法華寺町

※指定は、既に特別史跡に指定済の平城宮跡の中に含まれます。

指定地面積 14,149.9㎡

指定履歴 名勝 平城宮東院庭園（平成21年7月23日 文部科学省告示114号）

概要

平城宮の東張出部は『続日本紀』に登場する「東宮」又は「東院」に比定され、
その東南隅部において発見・修復された庭園は「平城宮東院庭園」として広く知られてい
る。庭園は北から南に向かう緩傾斜面の縁辺部に位置し、東と南を平城宮外郭の築地
大垣に、北と西を掘立柱塀にそれぞれ囲まれている。発掘調査により、池は8世紀
を通じて存続するが、中頃に大きく造り替えられていることが判明している。その変遷の
過程からは、7世紀の庭園の池に用いられた直線や垂直状の石積を持つ護岸手法から、優
美な曲線やなだらかな洲浜状の汀線を持つ護岸手法へと、庭園の意匠・工法が大きく変
化した経過がうかがえる。それは、中国及び朝鮮半島から伝わったと考えられる造庭技法
を消化し、9世紀以降の日本庭園に見る独自の意匠・工法へと転化を遂げようとする過渡
的な過程を表すものである。

このように、8世紀における日本古来の庭園文化と大陸伝来の庭園文化との融合の過程
及びその後の発展の過程を知る上で極めて高い造園史上の価値を持つ事例であるのみなら
ず、その独特の意匠・構造・技法が精緻な修復により見事に再生された庭園として芸術上
・観賞上の価値は高い。

特別史跡の追加 1件

藤原宮跡（ふじわらきゅうせき）

追加指定予定地 橿原市高殿町10番地 外 368筆

既指定地 橿原市四分町、醍醐町、縄手町、木之本町、高殿町、飛驒町、別所町

追加指定予定地面積 238,118.82㎡

既指定地面積 624,249.54㎡

合 計

862,368.36㎡

概要

持統天皇8年（西暦694年）から和銅3年（西暦710年）まで三代15年間の宮殿跡。東西925m、南北907mのほぼ正方形。天皇の居住する内裏、儀式を行う大極殿、役人が政務を行う朝堂院や官衙からなる。今回、宮跡西端部を追加指定して保護の万全を図る。

過去の藤原宮跡の指定状況

昭和21年11月21日（史跡指定）

昭和27年3月29日（特別史跡指定）

昭和52年2月22日（追加指定）

昭和55年12月9日（同上）

昭和58年3月28日（同上）

昭和61年2月12日（同上）

平成元年8月14日（同上）

平成5年12月21日（同上）

平成19年7月26日（同上）

（参考）特別史跡 藤原宮跡の公有化の状況（平成19年5月18日現在）

特別史跡指定面積 624,249.54㎡

国有地面積 437,886.95㎡（特別史跡指定面積の約70%）

史跡の追加指定及び名称の変更 2件

名称	史跡 奈良山瓦窯跡（ならやまかわらがまあと）	… 名称変更
	歌姫瓦窯跡（うたひめかわらがまあと）	
	音如ヶ谷瓦窯跡（おんじょうがだにかわらがまあと）	… 追加指定
	市坂瓦窯跡（いちさかかわらがまあと）	… 追加指定
	梅谷瓦窯跡（うめだにかわらがまあと）	… 追加指定
	鹿背山瓦窯跡（かせやまかわらがまあと）	… 追加指定

旧名称	史跡 歌姫瓦窯跡（うたひめかわらがまあと）
指定	昭和51年 4月15日（文部省告示57号）
既指定所在地	奈良県奈良市歌姫町字コベ谷1885番の1 外 1筆 京都府木津川市市坂水干41番の2 外 2筆
追加指定予定地	奈良県側 なし 京都府側 京都府木津川市相楽台7丁目6番 他33筆等

音如ヶ谷瓦窯跡（おんじょうがだにかわらがまあと）
京都府木津川市相楽台7丁目6番

市坂瓦窯跡（いちさかかわらがまあと）

京都府木津川市州見台8丁目1番

梅谷瓦窯跡（うめだにかわらがまあと）

京都府木津川市梅美台5丁目27番2

鹿背山瓦窯跡（かせやまかわらがまあと）

京都府木津川市大字鹿背山小字須原6番 外

指定履歴

史跡 歌姫瓦窯跡（うたひめかわらがまあと）

指定 昭和51年 4月15日（文部省告示57号）

面積

既指定面積 3,564.44㎡

追加指定予定面積 34,746.37㎡

合計 38,310.81㎡

概要

平城京の後背の丘陵に分布する瓦窯群。特定の地域に集中して瓦窯を配置するという方法は、平城京特有のものであり、奈良時代の生産、政治を考える上でも重要である。今回は、音如ヶ谷瓦窯跡等を追加するとともに、名称を変更した。

史跡 唐古・鍵遺跡（からこ・かぎいせき）

所在地（既指定地） 奈良県磯城郡田原本町大字唐古50番2 外 169筆

追加指定予定地 奈良県磯城郡田原本町大字鍵248番3 1筆

指定履歴 史跡指定 平成11年 1月27日（文部省告示18号）

追加指定 平成14年12月19日（文部科学省告示209号）

追加指定 平成20年 3月28日（文部科学省告示40号）

面積

既指定面積 102,181.98㎡

追加指定予定面積 432.52㎡

合計 102,614.50㎡

概要

大和盆地中央部を流れる初瀬川が形成した沖積低地に位置する弥生時代の集落跡。日本有数の規模を誇る多重環濠集落であり、多数の遺物が出土し、銅鐸の鋳型、フイゴの羽口は特に注目される。今回は、条件が整った部分を追加指定する。